熊日1966.08.24

水俣港を総合開発

土地造成など図る　十月から着工へ

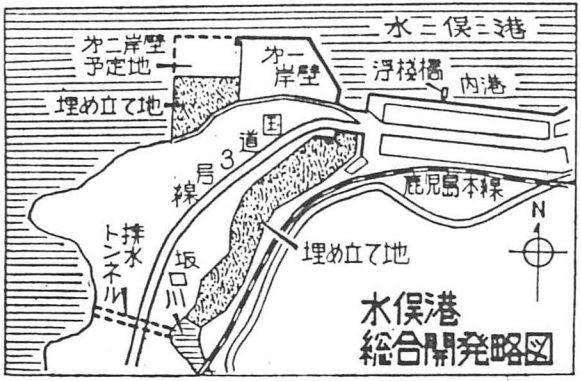
水俣港を中心とした総合開発を計画している水俣市は、港内にそそぐ坂口川、外港第二岸壁地先などを埋め立て、この造成地に糖蜜タンクを誘致するほか、大選果場、バスターミナル、可動橋などを設置することになり、十月からいよいよ実施に踏み切ることになった。

土地造成は坂口川の川口一万九千六百二十七平方㍍、第二岸壁予定地の一部九千平方㍍の計二万八千六百二十七平方㍍。坂口川は国鉄鹿児島本線と新国道三号線の間を流れ、同港の内港と外港第一岸壁の中間に注いでいる。坂口川は流れも短く幅も五～十㍍しかないが、川口から約四百㍍は入り江になっており、広いところで六十㍍、狭いところでも三十㍍ある。そこで川口から三百五十㍍付近までの入り江を締め切って埋め立て、川は国道三号線の下に長さ百三十九㍍（内径四・五㍍）のトンネルを掘り、月の浦海岸に流す計画。

川口付近には天草架橋の完成を前にして、各方面から強く要望されている本渡―水俣港間の航送船運航に備えて、可動橋を持った大型フェリー基地（四十二年度着工計画）を建設、埋め立て地には農業構造改善事業による大選果場（三千六百平方㍍）食品加工場（九千九百平方㍍）船舶整備施設（三千平方㍍）などをつくる。フェリー基地の近くは交通業者が希望しているので、バスターミナルになる可能性が強い。

第二岸壁予定地の一部の埋め立て地は、通産省出水アルコール工場の糖蜜タンクの進出が決定している。糖蜜タンクは工費約一億円で、三千㌧タンク二基、千㌧タンク一基、付属施設などの建設が近く始められる予定。

両埋め立て地の総工費は九千万円。臨海土地造成事業なので、八千九百万円の事公営企業債の申請をしていたが、このほど七千八百万円の起債が認められた旨、自治省から連絡があった。

土地造成のためにあてられる土は三万二千四百立方㍍で、山土五千四百立方㍍のほかは、すべて港内のしゅんせつ土、第一岸壁にサクを作って盛り上げているしゅんせつ土が使用される。このため港内が深くなるだけでなく、これまで野積み場がなかった第一岸壁に二万平方㍍の土地ができるので、五千㌧級を接岸できる施設がありながら利用できなかった同岸壁も新春からは活用できることになる。

このほか対岸の明神崎地先は、チッソ開発が一部を埋め立て、チッソ化工の工場が建設されており、残る部分には将来同化工の関連工場を誘致する計画もある。県も水俣港改修五カ年計画で、四十三年度までに百十㍍の第二岸壁（五千㌧級接岸）などを完成することになっている。同港の総合開発が完成すれば、天草架橋の完成と相まって、国道三号線、二六八号線と結び、南九州観光ルートの拠点としての地位も約束される。